

品質工学会 2011年度総会

日時：2011年6月23日(木) 9:15～9:45

場所：きゅりあん 大ホール

開会

議事

- (1) 第1号議案 2010年度事業報告と決算報告
- (2) 第2号議案 2011年度事業計画と収支予算案

紹介

- (1) 品質工学会評議員名簿紹介
- (2) 2010年度品質工学会貢献賞得点紹介

閉会

議事(1) 第1号議案 2010年度事業報告と決算報告

(I)2010年度事業報告

1. 概況報告

品質工学会は、品質工学フォーラム創立から数えて18年が経過しました。2010年度は2012年に迎える20周年に向けて、改めて学としての質を高めていく「内在化」と成果を見える形で社会に発信していく「外在化」を意識して活動を行いました。経済環境がまだ回復途上の中での活動でしたが、ほぼ計画通りの事業活動を行うことができました。

個人会員数は、2011年3月末時点で2032名となり、昨年度に対し10名減少しました。入会者が186名ありましたが、退会者が196名あったためです。(P7 図1 参照) 賛助会員企業は23社となり、昨年度に対し3社減少しました。2010年度は景気回復の途上で前年に比べて減少傾向が鈍化しましたが、3月11日に発生した東日本大震災の影響で減少に歯止めがかかりませんでした。

2010年度の主な活動について概要を以下に示します。

1) 18回品質工学研究発表大会 (QES2010) の開催

日時：2010年6月6、7日 場所：きゅりあん 参加者 884名 (前回854名)

テーマ：「技術者の思考力を強化する品質工学」

6会場を使い、論文発表103件 (前回111件) の発表を行い、活発な議論が行われました。

芝浦工業大学学長／日本工学アカデミー政策委員長 柘植綾夫氏による特別講演「21世紀日本新生に向けたイノベーション創出能力の強化策」を行いました。

1日目の午後の表彰式では、貢献賞及び、(財)精密測定技術振興財団品質工学賞論文賞、富山経営者協会品質工学賞、ASI賞の表彰を行い、2日目の午後に受賞記念講演会を開催しました。

2) 第3回品質工学技術戦略研究発表大会の開催

日時：2010年11月19日 場所：星稜會館 参加者 188名 (前回150名)

テーマ：「品質工学における技術戦略を問う」

研究発表6件及びパネル討論を行いました。

この大会は、技術戦略という品質工学の核となる課題にテーマを絞り、深く考察することによって、品質工学の理想機能を会員の間での共通認識に高めていくことを狙っています。

3) 企業交流会の開催

第22回企業交流会：2011年3月4日(金) (株)小松製作所研究本部 (神奈川県平塚市)

参加者数：会員70名、社内約60名

テーマ：「品質工学の継続活用への課題を探る」

午前にはコマツの会社紹介および事業紹介、午後からは研究事例9件についてのポスターセッションの後、アルプス電気、松浦機械製作所、コニカミノルタ、コマツの4社が発表し、それを受けて全体テーマである品質工学の継続活用に関してのパネルディスカッションを行いました。

4) 学会誌発行

Vol.18 No.2～Vol.19 No.1の6冊を編集、発行しました。掲載論文数は37編で、その内訳は「開発と研究」9編、「事例研究」28編です。その他、研究紹介、・・・視点、QEアラカルト、規格の活用、医学関係者、学校関係者、経営関係者の活動などの紹介を行いました。また、解説として、若手編集委員による「品質工学の歴史化」を連載したほか、矢野宏理事による論説「品質工学特論講義録」と「品質工学による生産システム的设计」の連載を行いました。

5) 各賞の選定と表彰

(財)精密測定技術振興財団品質工学賞のうち、「論文賞」については、2010年に学会誌掲載された論文37編より、大会発表受賞研究を除いた32編から金賞1編、銀賞3編が選定されました。「発表賞」については、2010年度研究発表大会の参加発表103件より金賞1件、銀賞3件が選定されました。また、ASI賞1編、富山県経営者協会品質工学賞1編が選ばれました。大会実行委員長賞、品質工学会会長賞を選定し、大会で表彰しました。

6) 品質工学会学生賞の表彰

2009年度より新設した賞です。これからの品質工学の持続的な発展を図るには大学など教育機関における品質工学の取り組み活動が重要で、この活動を支援し、教育機関における品質工学の存在感を高めるために、優秀な学生の研究に対する賞として創設しました。

2010年度は応募研究の中から、審査部会にて厳正に審査を実施し、2件の受賞研究を選定し、表彰しました。

7) 技術委員会活動

技術委員会として、地震予知 MT システム研究委員会と経営研究委員会の活動を継続して行っています。地震予知 MT システム研究委員会では、研究会を2度開催し地震の予測についての検討、および成果の報告を行いました。成果は第1報が学会誌 Vol.18、No.2 に掲載されました。また、第2報、第3報についても投稿しました。

8) 学校関係者連絡会活動

2010年6月6日に学校関係者有志による座談会を、水谷淳之介氏（富山高等専門学校）を司会者として開催しました。その内容は学会誌「品質工学」の Vol.19、No.4 に掲載予定です。

9) ISO 規格化

ISO/TC69 国内対応委員会では、「新しい技術開発と製品開発のための統計的方法及び関連手法の活用」という新しい SC8 (Sub Committee 8) が設立され、この SC の中で日本発の技術である QFD と RPD (Robust Parameter Design) の規格化を進めています。品質工学会規格委員会は TC69 国内対応委員会に協力しており、RPD の原案作成に着手しました。

10) 広報活動

『日刊工業新聞』紙面にて研究発表大会の開催告知(5/18掲載)、および結果報告(8/5掲載)の2回の企画広告掲載を通して、品質工学会の活動を広く発信しました。前年に引き続き、研究発表大会会場にてカタログ展示会を開催した他、広告代理店に協力いただき、学会誌への広告掲載件数を定常確保しました。

また、入会案内書を刷新しました。今回より、配付のしやすさに重点を置くとともに、長期間にわたって活用できる内容構成にしています。

11) 田口玄一論説集の編集協力

(財)日本規格協会が進めている田口玄一論説集の編集に協力しています。これは、過去に雑誌「標準化と品質管理」に掲載された田口玄一博士の論説で、本にして出版されていないものを選んで出版するものです。全4巻の出版予定のうち、第1巻「管理と調節と検査、工程の設計、計測」が2011年2月に出版されました。

以上のような広範囲の活動ができましたのも、会員の皆様の多大なご協力によるものです。ここに改めてお礼を申し上げます。

2. 各部会報告

(1) 事業部会

1) 18回品質工学研究発表大会（QES2010）の開催

- ・2010年6月6、7日の2日間、品川区立総合区民会館（きゅりあん）で開催しました。参加者は884名（内会員702名、招待者70名）でした。一昨年来の不況で、参加者の減少が心配された中の開催でしたが、計画数には若干未達でしたが、昨年以上の参加者数がありました。
- ・大会テーマは「技術者の思考力を強化する品質工学」として、論文発表103件、（壇上発表32件、ポスター発表71件）、特別講演「21世紀日本新生に向けたイノベーション創出能力の強化策」（芝浦工業大学学長／日本工学アカデミー政策委員長 柘植綾夫氏）を行いました。
- ・品質工学会にふさわしい大会とするために検討を重ね、壇上発表2会場、ポスター発表4会場での発表としました。
それぞれの発表形式は、
 - i) 壇上発表は（個別発表＋質疑応答）の形式
 - ii) ポスター発表は（ポスター展示＋オーガナイズドセッション＋自由討論）の形式としましたが、活発な議論が行われ、概ね好評でした。
- ・第18回大会の企画・運営を行うために、大会実行委員会（委員長：原和彦副会長）を組織しました。実行委員会は35名のメンバーで、2009年10月から2010年7月まで活動しました。また、第19回品質工学研究発表大会（QES2010）のための実行委員会（委員長：谷本勲副会長）が、2010年10月より活動を開始しました。

2) 第3回品質工学技術戦略研究発表大会開催（企画委員会）

- ・企画委員会では、「秋の大会」として第3回品質工学技術戦略研究発表大会を企画し、2010年11月19日（金）に東京永田町の星陵會館ホールで開催しました。研究発表6件及びパネル討論で構成され、参加者は188名でした。詳細報告は学会誌 Vol.19, No.2 を参照してください。
- ・この大会は、技術戦略という品質工学の核となる課題にテーマを絞り、深く考察することによって、品質工学の理想機能を会員の中の共通認識に高めていくものとして、次年度以降も続けて開催することとします。

3) 企業交流会の開催

- ・第22回企業交流会を2011年3月4日（金）神奈川県平塚市の榊小松製作所研究本部にて開催しました。会員70名、コマツ側約60名が参加しました。
- ・全体テーマを「品質工学の継続活用への課題を探る」として、午前はコマツの会社紹介および世界中の機械の動作状況をリアルタイムで把握できるシステムなど事業紹介、午後からは自動車、建設機械、動力機械などの重工業関連の研究事例9件についてのポスターセッションを行いました。
- ・続いて各企業における品質工学の活用状況とグローバル時代を迎えて今後の活用の考え方について、アルプス電気、松浦機械製作所、コニカミノルタ、コマツの4社が発表し、それを受けて全体テーマである品質工学の継続活用に関するパネルディスカッションを行いました。
- ・いずれのプログラムも活発な討論が交わされて、各発表者の品質工学の実践に対する使命感が参加者に伝わり、感銘を受けた有意義な交流会となりました。

(2) 出版部会

1) 編集委員会活動

- ・学会誌「品質工学」Vol.18 No.2～Vol.19 No.1 の6冊を編集、発行しました。
- ・投稿論文数は前年とほぼ同様であり、論文と記事の掲載に対応するための予算を確保し、毎号約150ページの学会誌と編集しています。この編集作業に、26人体制として鋭意取り組んでいます。
- ・矢野 宏理事による「品質工学特論講義録」の連載を行っていましたが、本連載は Vol.18、No.3 で終了しました。No.4 以降におきましては同じく矢野 宏理事による「品質工学による生産システムの設計」の連載を開始しました。品質工学を生産システムとして、一貫させた形で示そうとするもので、品質工学の戦略として、位置づけをより明確にしようとする意図です。
- ・若手編集委員を中心とした「品質工学の歴史化」の連載を Vol.14、No.2 より開始していますが、Vol.19においても引き続き連載していきます。初期の品質工学、およびその発展の流れについて、

新しく会員となった方など知らない方も多くなりました。過去の研究論文を歴史として整理することによって、新たな知見を得ようと判断したためです。また、執筆者は必ずしも若手にこだわらないこととしました。

- ・…視点、QE アラカルトは、編集委員の勉強の場としてほぼ毎回掲載しました。
- ・規格の活用、医学関係者、学校関係者、経営関係者の活動の紹介をしました。

2) 技術委員会活動

- ・技術委員会として、地震予知 MT システム研究委員会、経営研究委員会を立ち上げ、研究会を開催しました。
- ・地震予知 MT システム研究委員会の研究内容については、地震発生の予測について学会誌に第 2 報と第 3 報を投稿しました。
- ・経営委員会は、経営という観点から品質工学のあり方を検討しています。第 3 回目の座談会を準備しており、そのまとめを学会誌に掲載する予定です。

3) 学校関係者連絡会活動

- ・2010 年 6 月 6 日に学校関係者有志による座談会を、水谷淳之介氏（富山高等専門学校）を司会者として開催しました。その内容は学会誌「品質工学」の Vol.19、No.4 に掲載予定です。また大学を含め学校関係者により広く関心をもってもらうための方策を検討しています。

(3) 広報部会

品質工学に関する情報発信を通じて品質工学および品質工学会の認知度を高めることを目的に活動を進めました。

1) 広報宣伝活動について

- ・『日刊工業新聞』紙面にて研究発表大会の開催告知(5/18 掲載)、および結果報告(8/5 掲載)の 2 回の企画広告掲載を通して、品質工学会の活動を広く発信しました。また、企画広告掲載にあたっては、賛助会員企業ならびに会員所属企業、(財)日本規格協会の協力をいただきました。
- ・前年に引き続き、研究発表大会会場にてカタログ展示会を開催し、大会参加者への情報提供を行いました。また、大会の盛況な様子を出版企業に認識していただく機会とすることができました。
- ・広告代理店に協力いただき、学会誌への広告掲載件数を定常確保しました。
- ・ダイレクトメールを中心にした、第 18 回品質工学研究発表大会、第 3 回品質工学技術戦略研究発表大会の開催告知活動を実施しました。

2) 学会ホームページについて

- ・ホームページの確実な維持管理を実施するとともに、品質工学情報の発信、会員サービス、および広報メディアとしての位置付け強化について検討を進めました。
- ・昨年度に引き続き、ホームページから直接、6 月の研究発表大会、11 月の技術戦略研究発表大会の発表および参加申込手続きできる会員向けサービスを提供しました。

3) その他

- ・入会案内書を刷新しました。今回より、配付のしやすさに重点を置くとともに、長期間にわたって活用できる内容構成にしています。
- ・広報部会およびインターネット運営委員会活動の強化に向けた部会委員の増員について検討しました。これらについては 2011 年度も継続検討していきます。

(4) 審査部会

1) 審査について

① 投稿論文の審査

- ・個々の研究論文に対して査読委員および編集委員によるチェックを行っていますが、審査部会は掲載の可否、論文種別決定および審査コメント作成を行っています。
- ・審査部会は部会員個々の自己研鑽だけでなく、審査部会員全員による 1 年間の掲載研究論文および大会発表の振り返り討議を行い審査レベルの維持・向上を図っています。なお、掲載研究および大会発表の振り返りについては学会誌に掲載しています。

② 財団法人精密測定技術振興財団品質工学賞論文賞

- ・2010 年に学会誌掲載された論文 37 編より、大会発表賞受賞研究を除いた 32 編から審査委員 14 名で審査し、金賞 1 件銀賞 3 件が選ばれました。前々年の掲載論文でも審査委員の強い推薦があれば候補とすることになっていますが該当はありませんでした。
- ・論文・発表のレベル向上を期待し、論文賞と大会発表賞の審査における評価項目を 2004 年に発表

しましたが、本年はそれを継続しました。この評価項目は品質工学の内容に関するものですが、論文の読みやすさ、発表の分かりやすさなどが考慮されるのは当然であります。

金賞：品質工学の技術展開としてのあり方の研究－トライデントからみる技展スタイルの研究－

Vol.18, No.5

吉澤正孝 (クオリティ・ディーブ・スマーツ有限責任事業組合)

銀賞：茨城地方の地震発生のパターンの定量化と予測(1)－つくば地区の地震パターン－

Vol.18, No.2

早川幸弘*1、水谷淳之介*1、山本桂一郎*1、鴨下隆志*2、矢野 宏*2

(*1富山商船高等専門学校 正会員、*2応用計測研究所(株) 正会員)

銀賞：時刻歴データを誤差因子とした過渡時の基本機能の研究－フィードバック制御の最適化－

Vol.18, No.6

渡邊泰行 (いすゞ自動車(株) 正会員)

銀賞：標準化誤圧を応用した RT 法－パターン距離を利用しない解析－ Vol.18, No.5

矢野耕也*1、早川幸弘*2、鴨下隆志*3

(*1日本大学 正会員、*2富山商船高等専門学校 正会員、*3応用計測研究所(株) 正会員)

③品質工学会 ASI 賞及び社団法人富山県経営者協会品質工学賞

ASI 賞には次の1件が選ばれました。また、富山県経営者協会品質工学賞には、次の1件が選ばれました。

・品質工学会 ASI 賞：

プレス絞り加工の CAE モデル簡略化によるパラメータ設計の効率向上 Vol.18, No. 4

三田智彦*1、斎藤淳一*1、渡辺 傑*2

(*1(株)ミツバ 正会員、*2(株)ミツバ)

・社団法人富山県経営者協会品質工学賞：

プリンタにおけるユーザビリティの機能性評価(2)－開発のリードタイムを短縮する方法－

Vol.18, No.1

坂本信也*1、河合靖則*2、田村希志臣*1、竹田誠*1

(*1コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株) 正会員、

*2コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株))

④財団法人精密測定技術振興財団品質工学賞発表賞

2010 年度研究発表大会の参加発表 103 件より発表賞金賞 1 件銀賞 3 件が選定されました。審査委員 22 名で、全員が全発表予稿を読み、それを判断材料の一つとして大会での発表を審査するというこれまでの方法にて選定されました。

金賞：オンライン・オフライン QE 融合による製造ライン構想設計技術の開発 発表番号 5

井田吉人*1、中田幸行俊*2、高橋克典*2

(*1マツダ(株) 正会員、*2マツダ(株))

銀賞：レンズアクチュエータのロバスト設計 発表番号 54

中垣保孝*1、八木克哉*2、波多野洋*2、山崎 茂*2、黒釜龍司*2、田村希志臣*3

(*1コニカミノルタオプト(株) 正会員、*2コニカミノルタオプト(株)、

*3コニカミノルタテクノロジーセンター(株) 正会員)

銀賞：測長システムの機能性評価と設備投資評価の検討 発表番号 53

曾我光英 (富士ゼロックス(株) 正会員)

銀賞：スポット溶接の評価システムの再構築 発表番号 8

森川賢一*1、松井克真*1 (*1マツダ(株) 正会員)

⑤品質工学研究発表大会実行委員長賞

大会実行委員長賞は、実行委員長の独自の選定で決定される賞であり、2010 年度は次の発表に贈られました。

受賞対象発表：ソフトウェア開発の基本機能 第 2 報 机上実験と事例研究による効果推定

発表番号 102

松坂昌司 (松坂ティーエムコンサルタンツ(株) 正会員)

⑥品質工学研究発表大会品質工学会会長賞

品質工学会会長賞は、大会発表の中からその時の会長の独自の選定で決定される賞であります。ただし、評価の視点は事前に公表されます。2010 年度第 18 回大会は、会長矢野宏氏により「新しいこと」の視点で選定されました。この視点は第 17 回大会のときと同じであります。

受賞対象発表：超硬合金粉末のふるい工程における運転条件の最適化 発表番号 42

志田穰太郎、佐々木賢 ((株)サンアロイ 正会員)

⑦品質工学会学生賞

2009 年度より新設した賞です。これからの品質工学の持続的な発展を図るには大学など教育機関における品質工学の取り組み活動が重要で、この活動を支援し、教育機関における品質工学の存在感を高めるために、優秀な学生の研究に対する賞「品質工学会学生賞」を創設しました。

2010 年度は応募研究の中から、審査部会にて厳正に審査を実施し、下記 2 件の受賞研究を選定しました。

学生賞受賞研究：

1)ワイヤ放電加工における加工技術向上に関する研究

沼澤陽介 (学生会員)

宮城教育大学大学院教育研究科

教科教育専攻 生活系教育専修 2 年

指導教員 小野元久

研究発表の種類；卒業研究

2)画像による省エネ発光体の評価方法の研究受賞者

赤川 龍之介 (学生会員)

富山高等専門学校射水キャンパス 専攻科 2 年

指導教員 塚田 章

研究発表の種類；卒業研究

2) 田口賞について

① 審査活動

・第 2 回田口賞の受賞候補について今年も継続して学会誌、大会、その他の公開資料から品質工学の実践に関する情報を収集分析しました。審査部会の会合で受賞企業に該当するかの検討を行いました。これらの結果をふまえ 2010 年 7 月、12 月に予備審査会を行いました。組織的展開の実践事例や研究も見受けられるようになりましたが、審査基準に照らし合せてみますと、本年度も該当企業が無いという結論に達しました。

② 普及活動の研究

・広島県の品質工学の活動についての学校・企業・新聞のトライデントを題材に研究を行い、09 年 11 月に開催された第 2 回品質工学技術戦略研究発表大会で発表をいたしました。その結果を踏まえた研究論文が学会誌に掲載されました。引き続き組織的展開の要となります審査項目の技術フォーカスに焦点をあてた研究を行いました。特に技術フォーカスには技略の研究が不可欠と考え、技略のフレームとそのアルゴリズムの発見のための研究を行い、第 3 回品質工学技術戦略研究発表大会で発表しました。今後も 7 つのフレーム毎に展開活動の継続研究を継続し、審査の質の向上を継続します。

3) 田口玄一論説集について

- ・(財) 日本規格協会が進めている田口玄一論説集の編集に協力しています。
- ・これは、田口玄一の過去に雑誌「標準化と品質管理」に掲載された論説で、本にして出版されてないものを選んで出版するもので、全 4 巻の予定です。
- ・“温故知新”の実践で、品質工学の理解を深めるには田口玄一の考えの源流、変遷を学ぶ必要があると考えています。
- ・第 1 巻「管理と調節と検査、工程の設計、計測」が 2011 年 2 月に出版されました。

4) 品質工学の課題について議論

(財) 日本規格協会の雑誌「標準化と品質管理」に品質工学リレー討論が掲載されています。その中で組織的展開の記事としてマネジメント層への啓蒙と、課題解決についての方向性についての意見を展開しました。

(5) 庶務部会

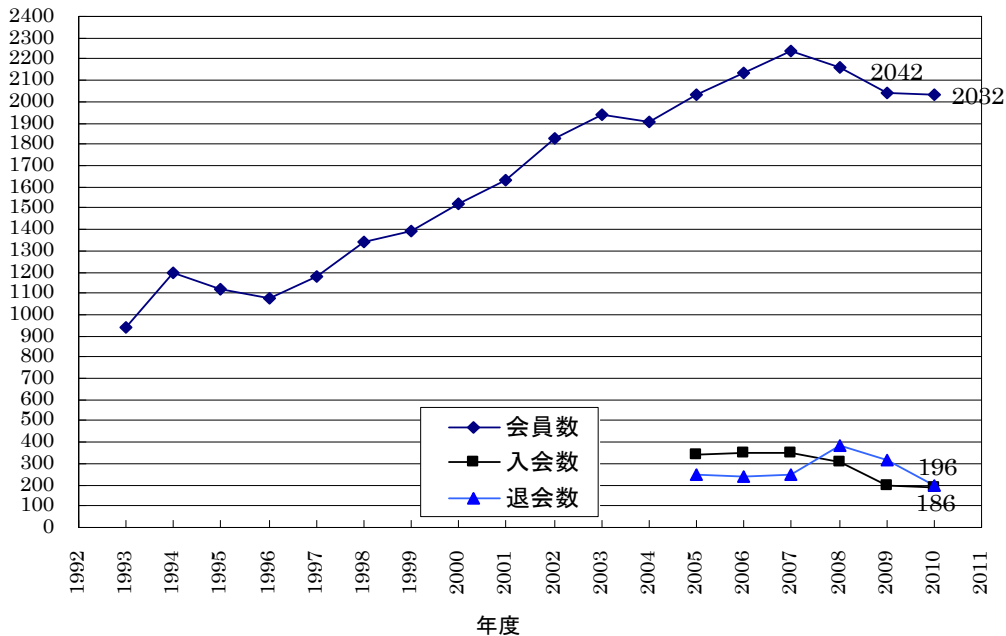
2010 年度も各部会と連携を取り、学会活動の円滑な運営及び学会の経営基盤と会員サービスの改善を重点に取り組みました。

個人会員数は、2011 年 3 月末時点で 2032 名となり、昨年度に対し 10 名減少しました。入会者が 186 名ありましたが、退会者が 196 名あったためです。賛助会員企業は 24 社となり、昨年度に対し新たに 1 社入会していただきましたが、4 社が退会ないし休会し、トータルでは 3 社減少しました。

2010年度は景気回復の途上で前年に比べて減少傾向が鈍化しましたが、3月11日に発生した東日本大震災の影響で減少に歯止めがかかりませんでした。

図1に2005年度以降の各年度の個人会員数、入退会者数の推移を示します。2007年度をピークに入会者数が減少しています。退会者数は2008,2009年度で増加し、2010年度は鈍化しました。学会の運営基盤は会員が納める会費です。そのため、会員数の一定数の確保は不可欠で、会員数の増加が大きな課題の一つとなっています。

図1 会員数と入退会者数の年度ごとの推移



庶務部会として実施した活動は以下の通りです。

1)会費未納者への督促

・運営基盤強化の観点から会員の増加および年会費納入率の改善は大きな課題です。会費未納者の未納理由を分析すると共に、未納者に対する個別の督促、処分を行いました。

2) 規定類の整備

・必要な規定類の整備に着手しました。今後も整備を継続して行います。

2) 評議員の活動

・2010年度の評議員会では、昨年と同様に評議員同士の情報交換と親睦を主な目的に、7つのグループに分かれてグループディスカッションを実施しました。60数名の評議員と各グループに分かれて参加した14名の理事が地域での推進の苦労や情報交換、また提案などについて議論を行いました。

3) 大会における表彰イベントの実施

・学会の賞の価値を高めていくことを狙いとして、1日目の午後に、貢献賞及び論文賞など賞の表彰式を行い、2日目の午後に論文賞、富山県経営者協会品質工学賞、ASI賞の受賞記念講演を実施しました。

4) 規格委員会

・ISO/TC69「統計的方法の応用」を通して、ロバストパラメータ設計の規格を制定すべく、活動を行っています。TC69国内対応委員会にSC8 (Sub Committee 8)「新しい技術開発と製品開発のための統計的方法及び関連手法の活用」が設立されました。この新SCでは、日本発の技術であるQFDとRPD (Robust Parameter Design) の規格化を行うことになっており、品質工学会規格委員会はTC69国内対応委員会に協力しています。2010年度、規格委員会ではRPDの原案作成に着手しました。

3. 2010年度各部会委員

継続の方が多いので、2011年度の3.組織体制と部会委員の頁に掲載しました。

(Ⅱ)2010年度決算報告

平成 22 年度決算書(収入の部)

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

収入の部			
	予算	決算	差異(予算-決算)
I 事業活動収入計	40,067,000	36,469,560	3,597,440
[入金収入]	400,000	311,000	89,000
入会金	400,000	311,000	89,000
[年度会費収入]	22,950,000	21,759,800	1,190,200
正会員会費	18,528,000	17,184,300	1,343,700
学生会員会費	72,000	75,500	△ 3,500
賛助会員会費	4,350,000	4,500,000	△ 150,000
[事業収入]	15,990,000	13,851,357	2,138,643
(学会誌出版)	1,300,000	1,106,052	193,948
学会誌購読料	700,000	441,200	258,800
学会誌掲載広告	600,000	664,852	△ 64,852
(研究発表大会)	11,600,000	9,684,305	1,915,695
参加費	9,500,000	8,603,000	897,000
懇親会費	780,000	564,105	215,895
論文集購読料	1,320,000	517,200	802,800
(企業交流会)	650,000	931,000	△ 281,000
参加費	405,000	716,000	△ 311,000
懇親会費	245,000	215,000	30,000
(技術戦略研究発表大会)	1,740,000	2,130,000	△ 390,000
参加費	1,500,000	1,890,000	△ 390,000
懇親会費	240,000	240,000	0
(経営者懇談会)	700,000	0	700,000
一般参加費	600,000	0	600,000
委員会等参加費	100,000	0	100,000
[雑収入]	127,000	7,083	119,917
受取利息収入	7,000	7,083	△ 83
雑収入	120,000	0	120,000
[寄付金収入]	300,000	290,320	9,680
貢献賞寄付金収入	300,000	290,320	9,680
[受取補助金等収入]	300,000	250,000	50,000
精密測定財団審査助成金	250,000	200,000	50,000
富山県経営者協会審査助成金	50,000	50,000	0
II 投資活動収入計	140,000	9,161,805	△ 9,021,805
[特定資産取崩収入]	140,000	9,161,805	△ 9,021,805
法人化準備金引当取崩収入		9,000,000	△ 9,000,000
貢献賞積立金取崩	140,000	161,805	△ 21,805
当期収入合計	40,207,000	45,631,365	△ 5,424,365
前期繰越金	704,355	704,355	0
合計	40,911,355	46,335,720	△ 5,424,365

平成 22 年度決算書(支出の部)

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

支出の部			
	予算	決算	差異(予算-決算)
I 事業活動支出計	40,911,355	44,326,656	△ 3,415,301
[事業費支出]	21,267,000	22,576,986	△ 1,309,986
(学会誌出版)	11,573,000	14,215,487	△ 2,642,487
会誌作成費	9,500,000	12,031,266	△ 2,531,266
外注委託費	550,000	648,808	△ 98,808
発送費	1,500,000	1,473,483	26,517
委員会費	23,000	61,930	△ 38,930
(研究発表大会)	7,300,000	6,758,203	541,797
会場費	1,000,000	815,650	184,350
論文集印刷費	2,350,000	2,427,650	△ 77,650
大会経費	2,200,000	1,945,785	254,215
懇親会費	900,000	865,009	34,991
委員会費	850,000	704,109	145,891
(技術戦略研究発表大会)	1,359,000	1,309,608	49,392
会場費	280,000	311,010	△ 31,010
資料印刷費	480,000	366,791	113,209
大会経費	340,000	600,441	△ 260,441
懇親会費	240,000	11,550	228,450
委員会費	19,000	19,816	△ 816
(企業交流会)	435,000	293,688	141,312
交流会経費	190,000	127,103	62,897
懇親会費	245,000	166,585	78,415
(経営者懇談会)	600,000	0	600,000
会場費	200,000	0	200,000
懇談会経費	400,000	0	400,000
[管理費支出]	19,644,355	21,749,670	△ 2,105,315
(広報)	650,000	535,680	114,320
広報宣伝活動費	500,000	482,550	17,450
入会案内作成費	90,000	0	90,000
HP維持管理費	60,000	53,130	6,870
(審査)	460,000	434,928	25,072
工学賞贈賞	460,000	434,928	25,072
(貢献賞)	140,000	161,805	△ 21,805
貢献賞作成支出	140,000	161,805	△ 21,805
(庶務)	11,904,000	14,304,756	△ 2,400,756
労務費	8,450,000	9,643,951	△ 1,193,951
事務費	1,160,000	1,750,814	△ 590,814
印刷・通信費	800,000	1,334,571	△ 534,571
委員会費	140,000	140,325	△ 325
地区研究会助成費	446,000	444,000	2,000
会長賞・実行委員長賞作成費	38,000	46,095	△ 8,095
税理士報酬費	870,000	945,000	△ 75,000
(事務所賃借料)	4,320,000	4,335,515	△ 15,515
(会員DB管理等システムメンテナンス費)	800,000	823,200	△ 23,200
(WEB申し込みシステムメンテナンス)	800,000	822,600	△ 22,600
(商標登録経費)	47,500	331,186	△ 283,686
(予備費支出)	522,855	0	522,855
II 投資活動支出計	0	240,320	△ 240,320
[特定資産取得支出]	0	240,320	△ 240,320
貢献賞積立金積立支出	0	240,320	△ 240,320
当期支出合計	40,911,355	44,566,976	△ 3,655,621
次期繰越金	0	1,768,744	△ 1,768,744
合計	40,911,355	46,335,720	△ 5,424,365

田口賞特別会計決算書(平成22年度)

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収 入			支 出		
	予算	決算		予算	決算
前期より繰越金	849,748	849,748	審査経費	400,000	0
雑収入(受取利息収入)		7			
収入合計	849,748	849,755	支出合計	400,000	0
			次期繰越金	449,748	849,755
合 計	849,748	849,755		849,748	849,755

品質工学会学生賞特別会計決算書(平成22年度)

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収 入			支 出		
	予算	決算		予算	決算
前期より繰越金	969,820	969,820	審査・贈賞経費	60,000	11,550
雑収入(受取利息収入)		8			
収入合計	969,820	969,828	支出合計	60,000	11,550
			次期繰越金	909,820	958,278
合 計	969,820	969,828		969,820	969,828

地震予知MTシステム研究委員会特別会計決算書(平成22年度)

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収 入			支 出		
	予算	決算		予算	決算
前期より繰越金収入	899,895	899,895	委員会費	150,000	51,940
雑収入(受取利息収入)		175			
収入合計	899,895	900,070	支出合計	150,000	51,940
			次期繰越金	749,895	848,130
合 計	899,895	900,070		899,895	900,070

比較貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(一般会計)

資産の部				負債の部			
科目	平成22年度	平成21年度	増減	科目	平成22年度	平成21年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
1 流動資産	8,096,744	4,140,355	3,956,389	1 流動負債	6,328,000	3,436,000	2,892,000
現金	102,122	410,588	△ 308,466	前受金	6,328,000	3,432,000	2,896,000
預金	7,983,072	3,729,767	4,253,305	仮受金		4,000	△ 4,000
学生賞特別会計立替金	11,550		11,550				
2 固定資産	15,241,044	24,162,529	△ 8,921,485	2 固定負債	12,503,444	21,424,929	△ 8,921,485
貢献賞基金積立預金	3,003,444	2,924,929	78,515	貢献賞基金積立引当金	3,003,444	2,924,929	78,515
学会活動積立引当預金	3,000,000	3,000,000	0	学会活動積立引当金	3,000,000	3,000,000	0
法人化準備金引当預金		9,000,000	△ 9,000,000	法人化準備金引当金		9,000,000	△ 9,000,000
周年記念積立引当預金	5,700,000	5,700,000	0	周年記念積立引当預金	5,700,000	5,700,000	0
退職給与引当預金	800,000	800,000	0	退職給与引当預金	800,000	800,000	0
差入敷金	2,737,600	2,737,600	0				
				負債合計	18,831,444	24,860,929	△ 6,029,485
				III 正味財産	4,506,344	3,441,955	1,064,389
				一般正味財産	4,506,344	3,441,955	1,064,389
資産合計	23,337,788	28,302,884	△ 4,965,096	負債及び正味財産合計	23,337,788	28,302,884	△ 4,965,096

(田口賞特別会計)

資産の部				負債の部			
科目	平成22年度	平成21年度	増減	科目	平成22年度	平成21年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
1 流動資産	849,755	850,748	△ 993	1 流動負債	0	1,000	△ 1,000
普通預金	849,755	848,748	1,007	仮受金		1,000	△ 1,000
仮払金		2,000	△ 2,000				
2 固定資産	4,350,000	4,350,000	0	2 固定負債	4,350,000	4,350,000	0
田口賞基金積立	4,350,000	4,350,000	0	田口賞基金引当	4,350,000	4,350,000	0
				負債合計	4,350,000	4,351,000	△ 1,000
				III 正味財産	849,755	849,748	7
				1 指定正味財産	849,748	849,748	0
				2 一般正味財産	7		7
資産合計	5,199,755	5,200,748	△ 993	負債及び正味財産合計	5,199,755	5,200,748	△ 993

(学生賞特別会計)

資産の部				負債の部			
科目	平成22年度	平成21年度	増減	科目	平成22年度	平成21年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
1 流動資産	969,828	969,820	8	1 流動負債	11,550		11,550
普通預金	969,828	969,820	8	短期借入金	11,550		11,550
				負債合計	11,550	0	11,550
				正味財産	958,278	969,820	△ 11,542
				一般正味財産	958,278	969,820	△ 11,542
資産合計	969,828	969,820	8	負債及び正味財産合計	969,828	969,820	8





(地震予知MTシステム研究委員会特別会計)

資産の部				負債の部			
科目	平成22年度	平成21年度	増減	科目	平成22年度	平成21年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
1 流動資産	848,130	900,895	△ 52,765	1 流動負債	0	1,000	△ 1,000
普通預金	848,130	899,895	△ 51,765	仮受金		1,000	△ 1,000
仮払金		1,000	△ 1,000	負債合計	0	1,000	△ 1,000
				III 正味財産	848,130	899,895	△ 51,765
				一般正味財産	848,130	899,895	△ 51,765
資産合計	848,130	900,895	△ 52,765	負債及び正味財産合計	848,130	900,895	△ 52,765

平成 23 年 3 月 31 日



以上の通り相違ありません。

品質工学会

会長	伊藤	源三	
副会長	龍田	豪登	
副会長	谷本	重	
庶務理事	浜三	元孝	

平成 23 年 6 月 8 日

上記の調査を遂げ、その正確であることを承認いたします。

会計監事	吉野	三	
会計監事	吉野	三三	

議事(2) 第2号議案 2011年度事業計画と予算案

(I) 2011年度事業計画

1. 運営方針と活動概要

品質工学会は来年 20 周年という大きな節目を迎えます。品質工学は着実に広がりを見せてきましたが、同時に品質工学及び学会に対する期待はますます高まっています。

学会として、学としての質を高めていく「内在化」と成果を見える形で社会に発信していく「外在化」を共に進めていくことに継続して取り組んでいます。20 周年を来年に控え、これまで積み上げてきた成果を新たな視点で整理して「財産目録」を作り、何ができて何が課題かを形にして示すことが 20 周年の課題であると考えています。

こうした基本方針を踏まえつつ、今年度は、これまでの定着した活動を一層充実させるとともに、20 周年に向けた「財産目録」作りの作業を具体的に進めていきます。活動概要は以下の通りです。

1) 研究発表大会の開催

第 19 回品質工学研究発表大会（2011 年 6 月 22 日(水)、23 日(木)）を品川区立総合区民会館（きゅりあん）で開催します。

2) 品質工学技術戦略研究発表大会の開催

第 4 回品質工学技術戦略研究発表大会を、2011 年 11 月 18 日（金）に東京永田町の星陵會館ホールで開催します。

3) 企業交流会の開催

第 23 回企業交流会を 2012 年 3 月に開催します。現在、開催場所、総合テーマおよびプログラムの検討を行っています。

4) 学会誌の発行

これまでと同様、年 6 冊の発行を予定し、研究論文の充実を図っていきます。「品質工学の歴史化」と題する連載をはじめ、規格の活用、学校関係者、医学関係者の活動の紹介、QE アラカルトの掲載にも力を入れていきます。

5) 技術委員会の充実

従来の技術委員会の位置づけを見直し、具体的な活動目的を持った研究委員会を組織して品質工学の研究を行っていきたくと考えています。地震予知MTシステム研究委員会と経営研究委員会はすでに活動を開始しています。研究の成果は学会誌を通して報告していきます。また、新たに立ち上げましたMTシステム応用研究委員会については、研究を開始しました。

6) 田口賞について

継続して会員組織体の実践状況を把握する活動を行います。また、審査の質を向上するように、普及に関する研究活動を継続します。

7) 規格化活動

継続して ISO/TC69 国内対応委員会と協力して、RPD（Robust Parameter Design）の規格化を進めます。

8) 田口玄一論説集について

（財）日本規格協会が進めている田口玄一論説集の編集に協力します。本年度は第 4 巻「音と通信・画像の解析、人間(認識・運動)の解析、情報における MT システム」を発行予定です。

9) 学会設立 20 周年対応

財産目録の作成に着手します。

10) 広報活動の強化

個人会員はもとより賛助会員の獲得を図るべく、各メディアやイベントを通じた広報活動を積極的に実施します。

11) 経営基盤強化の取組み

会員増、事業収入増の方策を検討するとともに、会費納入率を向上して経営基盤強化を図ります。

品質工学会の活性化は、ひとえに会員の皆様、評議員の皆様のご理解とご協力にかかっています。今年度も、皆様の活発な活動をよろしくお願ひします。

2. 各部会活動

(1) 事業部会

1) 研究発表大会の開催

- ・ 第 19 回品質工学研究発表大会 (2011 年 6 月 22 日(水)、23 日(木)) を品川区立総合区民会館 (きゅりあん) で開催します。
- ・ 第 20 回品質工学研究発表大会の開催準備を行い、2012 年 6 月 28 日(木)、29 日(金) に品川区立総合区民会館 (きゅりあん) で開催する予定です。発表申し込みの締め切りは 2012 年 1 月末を予定していますので、多くの会員の申し込みを期待します。

2) 企業交流会の開催

- ・ 会員中心の討論の場である企業交流会を 2012 年 3 月に開催します (第 23 回)。現在、開催場所、総合テーマおよびプログラムの検討を行っています。

3) 第 4 回品質工学技術戦略研究発表大会の開催

- ・ 企画委員会では、2011 年 11 月 18 日 (金) に東京永田町の星陵會館ホールで開催する、第 4 回品質工学技術戦略研究発表大会の準備と当日の運営を行います。

(2) 出版部会

1) 編集委員会活動

- ・ 年 6 冊の学会誌を発行します。内容の充実を図るため、研究論文中の図表の英文化について、継続して進めていきます。
- ・ 矢野 宏理事の連載をはじめとする、学会役員を中心とした論説の掲載を行います。
- ・ 広く学会活動を紹介するため、・視点、規格の活用、学校関係者、医学関係者、経営関係者の活動の紹介、QE アラカルトの充実にも力を入れていきます。
- ・ 若手の編集委員を中心とした「品質工学の歴史化」の連載を継続していきます。
- ・ 医学・薬学関係者に対する会員数及び反応はまだ少ないのですが、この分野を取り込むことが戦略的にも重要であるとの考え方から、さらに力を入れていきたいと考えています。

2) 技術委員会活動

- ・ 学会活動の中では、研究会活動は重要です。すでに地震予知 MT システム研究委員会の研究は ASI の協力の下に開始し、その成果を学会誌に発表いたしました。また、経営研究会委員会を立ち上げ、活動を開始いたしました。新しく立ち上げた MT システム応用研究委員会についても研究を開始いたしました。技術委員会の成果は学会誌を通して紹介していきます。
- ・ 経営委員会の座談会を年 2 回程度開催し、そのまとめを学会誌に掲載します。

3) 学校関係者連絡会活動

- ・ 2010 年 6 月 6 日 (第 18 回品質工学研究発表大会開催日前日) に学校関係者有志による座談会を、水谷淳之介氏 (富山高等専門学校) を司会者として開催し、内容を学会誌「品質工学」Vol.19、No.4 に掲載します。

(3) 広報部会

前年度に引き続き、品質工学に関する情報発信を通じて品質工学および品質工学会の認知度を高めることを目的に活動を進めていきます。

1) 広報宣伝活動について

- ・ 昨年度に引き続き、個人会員はもとより賛助会員の獲得を図るべく、各メディアやイベントを通じた広報活動を積極的に実施していきます。
- ・ 前年度に引き続き、研究発表大会会場にてカタログ展示会を開催し、品質工学会の活動を広く認知してもらう機会とします。
- ・ 広告代理店と連携を取りながら、学会誌広告掲載件数のさらなる拡大を図ります。
- ・ 第 19 回品質工学研究発表大会、第 4 回品質工学技術戦略研究発表大会の宣伝告知を強力に進め多くの参加者を募ります。

2) 学会ホームページについて

- ・ 情報提供媒体としてのホームページのさらなる活用強化を図るべく、内容構成の刷新について検討します。また、庶務部会と連携して、ホームページを通して提供する各種会員サービスのさらなる拡大を進めます。

3) その他

- ・広報部会の活動強化を図るために、引き続き広報部会およびインターネット運営委員会の増員について検討します。

(4) 審査部会

1) 審査について

- ・田口玄一氏の直接の指導が望めない状況に対応するため、審査部会のメンバーによる議論を重視するとともに、学会内外の多くの人との、幅広い視点での議論を重視していきます。
- ・論文および大会発表の審査と表彰は、品質工学の深さ(レベルアップ)と広がり(普及)に寄与すること大であるという認識で、審査活動を行います。
- ・2011年度の大会発表賞の審査対象は106件となり、2010年の103件とほぼ同じで、これまでの審査方法を維持・継続します。
- ・大会で受賞した発表は学会誌に論文化されるべきと考えます。論文化が遅れていますので、出版部会と協力して遅れの解消に努めます。
- ・2009年度新設の学生賞は引き続き、教育機関に賞の存在をアピールします。

2) 田口賞について

- ・継続して会員組織体の実践状況を把握する活動を行います。
- ・経営課題に対する品質工学の有効性の啓蒙を学会誌、大会などにて行います。
- ・審査の質を向上するように、普及に関する研究活動を継続します。特に11年度は今年も田口賞審査フレームの要素2の「技術フォーカス」に焦点をあて、技略を深掘り研究を継続いたします。その結果を技術戦略研究発表大会に発表し、広く会員の方と相互に議論を行い、組織的展開の促進を図ります。

3) 各論文のレビュー

学会誌掲載の研究論文は掲載時に審査部会コメントを記載し、さらに審査部会としてレビューを行い、年2回にわけて学会誌にてフィードバックします。

4) 田口玄一論説集について

- ・(財)日本規格協会が進めている田口玄一論説集(全4巻)の編集に引き続いて協力します。
- ・第1巻は2011年2月に(財)日本規格協会より出版されたが残る3巻を、毎年1巻ずつ出版の予定で、本年度の出版予定は第4巻「音と通信・画像の解析、人間(認識・運動)の解析、情報におけるMTシステム」の予定です。

(5) 庶務部会

本年度は各部会と連携を取り、学会活動の円滑な運営及び学会の経営基盤強化を重点に取り組みます。

- 1) 会員増、事業収入増の方策を検討し、収支改善につなげていきます。
- 2) 会費納入率の改善に取り組みます。
- 3) 規定類の整備を継続して行います。
- 4) 学会の賞の価値を高めていくことを狙いとした、貢献賞及び論文賞など賞の表彰イベントを昨年に引き続き企画します。
- 5) 評議員がより活発に活動できるよう方策を検討し、実施します。
- 6) ISO/TC69国内対応委員会と協力して、RPD(Robust Parameter Design)の規格化を進めます。
- 7) 2012年に迎える学会設立20周年に向けて、財産目録'作りの作業を具体的に進めていきます。

3. 組織体制と部会委員

2011年度は、次の担当で品質工学会を運営します。また、2010年度で退任された方も掲載しました。
(なお、所属は4月1日現在のものを記載しています)

(1) 理事および監事

会長	伊藤 源嗣	(株)IHI
副会長	龍田 康登	トーヨーエイテック (株)
副会長	谷本 勲	アルプス電気(株)
出版部会長	鴨下 隆志	応用計測研究所(株)
出版部会副部会長	矢野 耕也	日本大学
出版部会	天谷 浩一	(株)松浦機械製作所
出版部会	水谷 淳之介	富山高等専門学校
事業部会長	近岡 淳	(有)近岡技術経営研究所
事業部会副部会長	衛藤 洋仁	いすゞ自動車(株)
事業部会副部会長	中井 功	(株)アサヒ技研
事業部会	小池 昌義	(独)産業技術総合研究所
審査部会長	中島 建夫	東京電機大学
審査部会副部会長	吉澤 正孝	クオリティ・ディープ・スマーツ有限責任事業組合
広報部会長	松浦 強	オリンパスメディカルシステムズ(株)
広報部会副部会長	田村 希志臣	コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)
広報部会	浜本 章	(株)IHI
庶務部会長	浜田 和孝	Hamada Quality Solution
庶務部会副部会長	千葉 亨	HOYA(株)
庶務部会	矢野 宏	応用計測研究所(株)
庶務部会	福田 収一	Stanford University
庶務部会	中泉 純	(財)日本規格協会
監事	齊藤 潔	富士ゼロックス(株)
監事	吉野 荘平	吉野不動産鑑定事務所

(2) 各部会委員

1) 事業部会

《事業部会委員》

部会長	近岡 淳	(有)近岡技術経営研究所
副部会長	衛藤 洋仁	いすゞ自動車(株)
副部会長	中井 功	(株)アサヒ技研
事業担当理事	小池 昌義	(独)産業技術総合研究所
委員	大見 健児	三洋電機(株)
委員	熊谷 保昭	MHIさがみハイテック(株)
委員	坂本 慎太郎	日本オプネクスト(株)
委員	塩沢 潤一	クオリティクリエイト(株)
委員	関 道子	(株)ニコン
委員	白川 智久	セイコーエプソン(株)
委員	大工原 友幸	日産自動車(株)
委員	高木 春記	元キヤノン(株)
委員	武部 智	東芝電子エンジニアリング(株)
事務局	中山 みち子	品質工学会事務局

《第19回品質工学研究発表大会実行委員会委員》

実行委員長	谷本 勲	アルプス電気(株)
幹事	衛藤 洋仁	いすゞ自動車(株)
事業部会	小池昌義	(独)産業技術総合研究所

事業部会	坂本 慎太郎	日本オプネクスト(株)
	白川 智久	セイコーエプソン(株)
	関 道子	(株)ニコン
	高木 春記	(元)キヤノン(株)
	近岡 淳	(有)近岡技術経営研究所
実行委員	浅井 浩	日立オートモティブシステムズ(株)
	糸久 正人	東京大学
	太場 大輔	(株)IHI
	神生 直敏	北海道立工業試験場
	木下 秀明	テルモ(株)
	木村 国幸	(株)日立LGデータストレージ
	志田 穰太郎	(株)サン・アロイ
	澁谷 悠	ヤマハ発動機(株)
	鈴木 智雄	コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)
	高野瀬 雅樹	富士ゼロックス(株)
	橘 勇佑	リョービ(株)
	田中 孝治	セイコーインスツル(株)
	田中 紳公	古河電気工業(株)
	田中 創	三洋電機(株)
	徳永 誠士	キヤノンファインテック(株)
	中尾 誠仁	(株)ネオス
	中沢 和彦	アルプス電気(株)
	中島 武士	花王(株)
	松沢 克明	理想科学工業(株)
	平野 雅康	コニカミノルタオプト(株)
	矢幡 潤	富士ゼロックス(株)
	山戸田 武史	キヤノン(株)
事務局	中山 みち子	品質工学会事務局

《第18回品質工学研究発表大会実行委員会委員》

実行委員長	原 和彦	(元)松下電工(株)
幹事	衛藤 洋仁	いすゞ自動車(株)
事業部会	小池 昌義	(独)産業技術総合研究所
	坂本 慎太郎	日本オプネクスト(株)
	関 道子	(株)ニコン
	高木 春記	(元)キヤノン(株)
	近岡 淳	(有)近岡技術経営研究所
実行委員	浅井 浩	日立オートモティブシステムズ(株)
	有浦 茂樹	テルモ(株)
	糸久 正人	東京大学
	江末 良太	(株)IHI
	神生 直敏	北海道立工業試験場
	小林 昭弘	キヤノン(株)
	齊藤 衛	理想科学工業(株)
	坂本 勝彦	(株)日立LGデータストレージ
	佐々木 康雄	(株)リコー
	志田 穰太郎	(株)サン・アロイ
	白川 智久	セイコーエプソン(株)
	鈴木 智雄	コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)
	高野瀬 雅樹	富士ゼロックス(株)
	寶山 靖浩	リョービ(株)
	田中 孝治	セイコーインスツル(株)

	田中 紳公	古河電気工業(株)
	田中 創	三洋電機(株)
	鐵見 太郎	村田機械(株)
	徳永 誠士	キャノンファインテック(株)
	中尾 誠仁	(株)ネオス
	中沢 和彦	アルプス電気(株)
	中島 武士	花王(株)
	中野 義和	(株)椿本チエイン
	平野 雅康	コニカミノルタオプト(株)
	丸尾 啓介	ヤマハ発動機(株)
	水田 匡彦	(株)SUMCO
	矢幡 潤	富士ゼロックス(株)
	吉田 秀一	TDK(株)
事務局	中山 みち子	品質工学会事務局

《RQES2011企画委員会委員》

委員長	矢野 宏	応用計測研究所(株)
幹事	小池 昌義	(独)産業技術総合研究所
委員	伊藤 源嗣	(株)IHI
	龍田 康登	マツダ(株)
	鴨下 隆志	応用計測研究所(株)
	近岡 淳	(有)近岡技術経営研究所
	衛藤 洋仁	いすゞ自動車(株)
	中島 建夫	東京電機大学
	松浦 強	オリンパス(株)
	浜田 和孝	Hamada Quality Solution

2) 出版部会

《編集委員会委員》

部会長	鴨下 隆志	応用計測研究所(株)	(編集委員会委員長)
副部会長	矢野 耕也	日本大学	
編集委員	明吉 秀樹	(元)(株)リコー	
	安達 司	(元)(株)リコー	
	安達 範久	マツダ(株)	
	阿知波 正之	阿知波計量士事務所	
	宇井 友成	アルプス電気(株)	
	奥定 樹	(元)日通工(株)	
	金築 利旺	(株)あじかん	
	坂野 進	日本大学	
	佐藤 清悟	HOYA(株)	
	高木 俊雄	コニカミノルタテクノロジーセンター (株)	
	高橋 和仁	電気通信大学	
	田口 伸	American Supplier Institute	
	手島 昌一	アングルトライ(株)	
	常田 聡	日精樹脂工業(株)	
	栃洞 孝吉	(株)東海理化	
	中井 功	(株)アサヒ技研	
	中島 建夫	東京電機大学	
	二ノ宮 進一	日本工業大学	
	長谷川良子	古河電気工業(株)	
	福本 康博	マツダ(株)	
	星野 雅俊	(株)アビリティスタッフサービス	

	水谷 淳之介	富山高等専門学校
	森 義和	東亜合成(株)
	矢野 宏	応用計測研究所(株)
	山本 桂一郎	富山高等専門学校
	渡邊 泰行	いすゞ自動車(株)
事務局	中山 みち子	品質工学会事務局

《技術委員会委員》

委員長	天谷 浩一	(株)松浦機械製作所
委員	鴨下 隆志	応用計測研究所(株)
	久米原 宏之	地域産学官連携ものづくり研究機構
	矢野 耕也	日本大学
	矢野 宏	応用計測研究所(株)

(経営研究委員会委員)

責任者	龍田 康登	トーヨーエイテック(株)
幹事	近岡 淳	(有)近岡技術経営研究所

(学校研究会委員)

責任者	水谷 淳之介	富山高等専門学校
幹事	山本 桂一郎	富山高等専門学校
委員	久米原 宏之	地域産学官連携ものづくり研究機構

(地震予知 MT システム研究委員会)

責任者	矢野 宏	応用計測研究所(株)
幹事	鴨下 隆志	応用計測研究所(株)
委員	久米原 宏之	地域産学官連携ものづくり研究機構
	矢野 耕也	日本大学
	高橋 和仁	電気通信大学
	水谷 淳之介	富山高等専門学校
	早川 幸弘	富山高等専門学校
	山本 桂一郎	富山高等専門学校

(MTシステム応用研究委員会)

責任者	矢野 耕也	日本大学
幹事	高橋 和仁	電気通信大学
委員	内田 博志	マツダ(株)
	江末 良太	(株)I H I
	鴨下 隆志	応用計測研究所(株)
	矢野 宏	応用計測研究所(株)
	吉野 荘平	吉野不動産鑑定事務所

3) 広報部会

《広報部会委員》

部会長	松浦 強	オリンパスメディカルシステムズ(株)
副部会長	田村 希志臣	コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)
広報担当理事	浜本 章	(株)I H I
委員	宇井 友成	アルプス電気(株)
	長谷部 光雄	のっぽ技研
	日吉 和彦	医療機器産業研究所
	矢野 宏	応用計測研究所(株)
	渡辺 理恵	(財)日本規格協会

《インターネット運営委員会委員》

委員長	田村 希志臣	コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)
委員	安部田 章	九州日立マクセル(株)
	江末 良太	(株) I H I
	白川 智久	セイコーエプソン(株)
	柱 博志	アルプス電気(株)
	林 好材	住江織物(株)
	渡辺 理恵	(財)日本規格協会
オブザーバ	浜田 和孝	Hamada Quality Solution
	救仁郷 誠	富士ゼロックス(株)

《品質工学相談員》

相談員	飯田 憲一	北海道立総合研究機構
	神生 直敏	北海道立総合研究機構
	和合 健	岩手県工業技術センター
	石井 克明	群馬県繊維工業試験場
	福島 祥夫	群馬県立群馬産業支援センター
	須田 高史	群馬県立群馬産業支援センター
	針幸 達也	静岡県工業技術研究所
	舟田 義則	石川県工業試験場
	丸山 六男	長野県工業技術総合センター
	藤田 和朋	岐阜県産業技術センター
	井上 栄一	滋賀県工業技術総合センター
	酒井 一昭	滋賀県東北部工業技術センター
	桑原 修	広島市工業技術センター
	山下 弘之	広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター
	竹保 義博	広島県立総合技術研究所 東部工業技術センター
	平井 智紀	佐賀県工業技術センター
	中野 太郎	佐賀県工業技術センター
	南 晃	鹿児島県工業技術センター

4) 審査部会

《審査部会委員》

部会長	中島 建夫	東京電機大学
副部会長 兼	田口賞担当幹事	
	吉澤 正孝	クオリティ・ディープ・スマーツ有限責任事業組合
委員	田口 玄一	
	矢野 宏	応用計測研究所(株)
	鴨下 隆志	応用計測研究所(株)
	明吉 秀樹	(元)(株)リコー
	浜田 和孝	Hamada Quality Solution
	矢野 耕也	日本大学

5) 庶務部会

《庶務部会委員》

部会長	浜田 和孝	Hamada Quality Solution
副部会長	千葉 亨	HOYA(株)
庶務担当理事	矢野 宏	応用計測研究所(株)
庶務担当理事	中泉 純	(財)日本規格協会
庶務担当理事	福田 収一	Stanford University
委員	奥定 樹	(元)日通工(株)

救仁郷 誠	富士ゼロックス(株)	
長谷部 光雄	のっぽ技研	
秦 勝一郎	(社)日本計量振興協会	(退任)

《規格委員会委員》

委員長	小池 昌義	(独)産業技術総合研究所
幹事	浜田 和孝	Hamada Quality Solution
委員	福田 収一	Stanford University
	宮城善一	明治大学
	日吉 和彦	医療機器産業研究所
	澤 英之	オリンパス(株)
	長谷部光雄	のっぽ技研
	曾我光英	富士ゼロックス(株)
	佐藤清吾	HOYA(株)
	大村欽也	キヤノン(株)
齊藤衛	理想科学工業(株)	

6) 品質工学会事務局

中山 みち子

(Ⅱ)2011年度収支予算

平成23年度予算(案)

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

収入の部		支出の部	
	予算		予算
I 事業活動収入計	39,547,000	I 事業活動支出計	41,287,209
[入会金収入]	500,000	[事業費支出]	20,097,500
入会金	500,000	(学会誌出版)	11,550,000
[年度会費収入]	23,276,000	会誌作成費	9,500,000
正会員会費	18,662,000	外注委託費	550,000
学生会員会費	114,000	発送費	1,500,000
賛助会員会費	4,500,000	(研究発表大会)	6,810,000
[事業収入]	15,315,000	会場費	820,000
(学会誌出版)	1,260,000	論文集印刷費	2,430,000
学会誌購読料	560,000	大会経費	1,950,000
学会誌掲載広告	700,000	懇親会費	900,000
(研究発表大会)	11,230,000	委員会費	710,000
参加費	9,500,000	(技術戦略研究発表大会)	1,300,000
懇親会費	780,000	会場費	320,000
論文集購読料	950,000	資料印刷費	380,000
(企業交流会)	785,000	大会経費	360,000
参加費	540,000	懇親会費	240,000
懇親会費	245,000	(企業交流会)	437,500
(技術戦略研究発表大会)	2,040,000	交流会経費	192,500
参加費	1,800,000	懇親会費	245,000
懇親会費	240,000	[管理費支出]	21,189,709
[雑収入]	6,000	(広報)	1,143,130
受取利息収入	6,000	広報宣伝活動費	500,000
雑収入	0	入会案内作成費	90,000
[寄付金収入]	200,000	HP刷新費用	500,000
貢献賞寄付金収入	200,000	HP維持管理費	53,130
[受取補助金等収入]	250,000	(審査)	440,000
精密測定財団審査助成金	200,000	工学賞贈賞	440,000
富山県経営者協会審査助成金	50,000	審査部会会議費	
II 投資活動収入計	171,465	(貢献賞)	171,465
[特定資産取崩収入]	171,465	貢献賞作成支出	171,465
貢献賞積立金取崩	171,465	(庶務)	11,165,095
		労務費	8,050,000
		事務費	900,000
		印刷・通信費	800,000
		地区研究会助成費	424,000
		会長賞・実行委員長賞作成費	46,095
		税理士報酬費	945,000
		(事務所賃借料)	4,672,800
		(会員DB管理等システムメンテナンス費)	823,200
		(WEB申し込みシステムメンテナンス)	827,400
		(商標登録経費)	176,200
		(予備費支出)	1,770,419
		II 投資活動支出計	200,000
		[特定資産取得支出]	200,000
		貢献賞積立金積立支出	200,000
当期収入合計	39,718,465	当期支出合計	41,487,209
前期繰越金	1,768,744		
合計	41,487,209	合計	41,487,209

田口賞特別会計(平成23年度)

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

収 入		支 出	
	予算		予算
前期より繰越金	849,755	審査経費	400,000
収入合計	849,755	支出合計	400,000
		次期繰越金	449,755
合 計	849,755		849,755

品質工学会学生賞特別会計(平成23年度)

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

収 入		支 出	
	予算		予算
前期より繰越金	958,278	審査・贈賞費	60,000
収入合計	958,278	支出合計	60,000
		次期繰越金	898,278
合 計	958,278		958,278

地震予知MTシステム研究委員会特別会計(平成23年度)

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

収 入		支 出	
	予算		予算
前期より繰越金	848,130	委員会費	150,000
収入合計	848,130	支出合計	150,000
		次期繰越金	698,130
合 計	848,130		848,130

紹介(1) 評議員名簿

以下の85名の方々に、2010年6月9日～2012年6月総会までの期間、品質工学会評議員を委嘱しています。評議員の役割は各自の地域や職場において、品質工学会の事業を促進することです。具体的には、品質工学の研究および普及に貢献すること、会員増加に貢献すること、会費や事業への参加費の徴収をサポートすること、学会運営に関して意見具申することなどです。評議員の方々には、活発な活動をお願いします。

北海道		飯田 憲一	北海道立総合研究機構
		渡邊 聖司	釧路工業高等専門学校
東北	青森	岩永 禎之	青森職業能力開発短期大学校
		木村 英俊	五所川原市立五所川原第一中学校
	岩手	和合 健	岩手県工業技術センター
		亀田 英一郎	岩手大学
	福島	吉田 ゆき子	アルパインプレシジョン(株)
	秋田	竹花 末起一	TDK(株)
		嶋崎 真仁	秋田県立大学
	宮城	森 富也	東北リコー(株)
		三森 智之	アルプス電気(株)
		萱場 智雄	宮城県産業技術総合センター
		柱 博志	アルプス電気(株)
	山形	斎藤 誠	オリエンタルモーター(株)
北陸	石川	澗張 光広	(株)サン・アロイ
	富山	早川 幸弘	富山高等専門学校
		柴原 直利	富山大学
	新潟	小浦方 格	新潟大学
関東	茨城	中井 洋一郎	(株)ツムラ
		大村 欽也	キャノン(株)
		池嶋 昭一	理想科学工業(株)
	神奈川	飯田 孝久	慶応義塾大学
		福田 善行	(株)リコー
		奈良 敢也	日産自動車(株)
		岡本 潤	富士写真フイルム(株)
		宮城 善一	明治大学
	群馬	小宅 勝	群馬産業技術センター
		斉藤 克彦	サンデン(株)
		斎藤 淳一	(株)ミツバ
		久米原 宏之	地域産学官連携ものづくり研究機構
	埼玉	鷺谷 武明	ボッシュ(株)
		斎藤之男	東京電機大学
	千葉	石田 隆康	セイコーインスツル(株)
	東京	道明 誠	(株)ジーシー
		高松 喜久雄	(株)IHI
		緒方 隆司	オリンパス(株)
		田中 靖人	ソニー(株)
		梶谷 誠	電気通信大学
		越水 重臣	産業技術大学院大学
	栃木	須川 雅之	花王(株)
		中山 秀晴	古河電気工業(株)
	山梨	芦沢 英紀	リバーエレテック(株)
		熊坂 治	熊坂技術士事務所
中部	愛知	生駒 亮久	KYB(株)

		小杉 敬彦	トヨタ自動車(株)
		梅本 修平	日東電工(株)
	岐阜	高坂 慎治	三栄精工(株)
		小原 和世	三菱電機(株)
		松永 孝義	岐阜県科学技術振興センター
	静岡	木下 康次	(株)アマダ
		中村 光次	中央精工(株)
		奈須田 敏弘	ヤマハ(株)
	長野	宇井 経雄	宇井技術士事務所
		畠山 鎮	セイコーエプソン(株)
		岩下 幸廣	エプソントヨコム(株)
	三重	伊藤 幸和	富士電機リテイルシステムズ(株)
関西	大阪	太田 勝之	(株)シマノ
		道廣 敬治	近畿職業能力開発大学校
		西垣 晃志	イオンディライト(株)
	京都	真崎 藤義	オムロン(株)
		高木 正和	タツタ電線(株)
	滋賀	小林 昇	パナソニック電工(株)
		奥村 進	滋賀県立大学
		林 好材	住江織物(株)
	兵庫	鶴田 明三	三菱電機(株)
		渡辺 貞夫	(元)松下電器産業(株)
		濱田 行彦	富士通テン(株)
中国	岡山	川中 俊一	(株)クラレ
		小西 大二郎	津山工業高等専門学校
	鳥取	小幡 文雄	鳥取大学
	広島	桑原 修	広島市工業技術センター
		喜多 秀紀	喜多設計研究所
		井田 吉人	マツダ(株)
		朝田 真史	シャープ(株)
四国	高知	山口 信次	高知工科大学
	香川	奥 猛文	四国職業能力開発大学校
	愛媛	江戸 秀一	三浦工業(株)
九州	佐賀	田中 久	佐賀県工業技術センター
	長崎	中馬 康晴	三菱重工業(株)
	福岡	稲永 英和	(株)金門製作所
		山口 和也	MO S T 合同会社
	鹿児島	南 晃	鹿児島工業技術センター
海外	海外	周 佛鼎	中国 A-Plue コンサルタント
		Madhav Phadke	Phadke Associates、 Inc.
		Herbert RUEFER	Medical and Technical Diagnosis
		張 基一	ASI-KOREA,LTD
(退会)			
	宮城	萱場 智雄	宮城県産業技術総合センター
	石川	久世 隆	(株)コマツ
	埼玉	吉田 進	新電元工業(株)
	奈良	藤井 充央	日本バルカー工業(株)

紹介(2) 2010年度品質工学会貢献賞

品質工学会では、品質工学の発展と学会の活動や行事に貢献して頂いた会員に、その努力をたたえて貢献賞を授与します。

この賞は、学会活動及び学会外の品質工学に関する活動に対して貢献点を与えて、累積得点が100点に達したときに賞状、200点に達したときに銅メダル、300点に達したときに銀メダル、400点に達したときに金メダルが授与されるものです。会員の皆様は、大いに頑張ってお得点の高い賞を狙ってください。品質工学会貢献賞得点基準に基づく貢献得点は、下表のとおりです。

【貢献賞特別基金へのご協力のお願い】

特別基金は、個人一口2,000円、法人一口10,000円として募集し、お一人様何口でも受付いたします。また、個人会員に対する特典として、協賛金一口を2点として貢献点に加算させていただきますので、趣旨をご理解の上ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

貢献賞得点 配分表

点数	項目	点数	項目
1	学会誌校正	5	大会発表
1	会員歴	5	大会役割
1	貢献賞基金(1ポイント/1000円)	5	会計監査
1	学会誌後書き	5	学会誌編集委員
1	アンケート協力	5	大会遠隔地委員
2	公認研究会会員	5	大会当日実行委員
2	学会誌投稿	8	学会誌論文賞銀賞
2	学会誌査読、校正	8	大会発表賞銀賞
2	会員推薦	8	副会長
2	論文アブストラクト英訳	10	学会誌論文賞金賞
2	アンケート協力(詳細意見添付)	10	A S I 賞
3	発表大会参加	10	大会発表賞金賞
3	評議員	10	富山県経営者協会賞
3	認定研究会委員	10	本部役員
3	学会誌投稿	10	学会誌論文
3	大会実務	10	大会講演
3	大会司会	10	大会論文発表
4	各部会実務	10	大会実行委員長
4	社内外で事例発表	10	大会実行委幹事
5	論文賞・大会賞・A S I 賞審査担当	10	会長
5	各部会委員		

2010年度 貢献賞得点表
(100ポイント以上の方について合計点のみ掲載)

400点以上(金賞) 新金:5名

氏名	ポイント	表彰対象
矢野 宏	2775	
田口 玄一	2098	
小池 昌義	1578	
近岡 淳	1466	
原 和彦	1410	
鴨下 隆志	1338	

氏名	ポイント	表彰対象
中島 建夫	1256	
矢野 耕也	1161	
吉澤 正孝	989	
浜田 和孝	962	
田村 希志臣	819	
芝野 広志	782	

氏名	ポイント	表彰対象
安達 司	734	
高木 春記	704	
立林 和夫	701	
小野 元久	684	
阿知波 正之	632	
長谷部 光雄	582	
細川 哲夫	549	
金本 良重	549	
嘉指 伸一	547	
手島 昌一	542	
宇井 友成	533	
大見 健児	508	
秦 勝一郎	502	
関 道子	495	
水谷 淳之介	494	
長谷川 良子	468	
高木 俊雄	465	
田中 久	457	
久米原 宏之	455	
渡邊 泰行	445	
千葉 亨	444	
日座 和典	440	
白川 智久	436	新金
中井 功	419	新金
山田 典夫	414	
白幡 洋一	409	
星野 雅俊	406	新金
田口 伸	405	新金
山田 修	402	新金

300 点以上銀(銀賞) 新銀:3 名

氏名	ポイント	表彰対象
衛藤 洋仁	395	
福田 収一	382	
高田 圭	382	
増田 雪也	376	
救仁郷 誠	363	
桑原 修	361	
草間 三郎	361	新銀
武部 智	358	
竹内 和雄	357	
奥定 樹	352	
山本 桂一郎	346	
高橋 和仁	344	
近本 武次	343	
江末 良太	334	新銀
豊島 隆之	333	
畠山 鎮	331	
奈良 敢也	330	

氏名	ポイント	表彰対象
中山 勝之	324	
明吉 秀樹	322	新銀
山田 浩人	320	

200 点以上(銅賞) 新銅:8 名

氏名	ポイント	表彰対象
大工原 友幸	298	
坂野 進	289	
齊藤 潔	286	
北目 敬	285	
佐々木 賢	285	
飛田 啓輔	276	
福本 康博	271	
佐藤 清悟	270	
正道寺 勉	269	
日吉 和彦	267	
園田 泰子	260	
戸田 雅規	260	
吉野 節己	258	
石野 信博	258	
宮田 一智	253	
坂本 慎太郎	251	
清水 豊	250	
越水 重臣	250	
押野 源治	249	
酒井 一昭	247	
池田 和子	247	
和合 健	243	
金築 利旺	242	
綱島 功典	242	
高松 喜久雄	239	
岡林 英二	235	
本橋 勝実	232	
林 憲一	229	
徳山 篤人	228	
佐々木 市郎	226	新銅
鷺谷 武明	223	
藤田 和朋	222	
茂木 徹	221	
松永 孝義	218	
飯田 憲一	215	新銅
森 輝雄	212	新銅
山下 弘之	212	
谷本 勲	212	新銅
藤本 良一	211	
熊谷 保昭	211	新銅
二ノ宮 進一	207	新銅
市後 博造	205	
栗原 憲二	201	

氏名	ポイント	表彰対象
鐵見 太郎	201	新銅
金井 敏行	200	新銅

100 点以上(貢献賞) 新貢献:23 名

氏名	ポイント	表彰対象
中島 尚登	197	
柄洞 孝吉	196	
深澤 宏	195	
安達 範久	190	
中尾 誠仁	188	
柱 博志	188	
塚越 隆啓	186	
小板橋 洸夫	186	
秋山 昌之	185	
常田 聡	185	
森 義和	182	
土屋 元彦	176	
平野 雅康	176	
坂本 雅基	176	
田中 創	176	
石井 克明	175	
佐々木 康夫	175	
宮城 善一	174	
近藤 隆幸	174	
井田 吉人	174	
紙本 治男	173	
太田 勝之	173	
伊藤 源嗣	171	新貢献
杉山 一宏	170	
宝泉 誠	169	
玉村 都夫	166	
三浦 進	166	
堀 信夫	163	
兼高 達貳	162	
中野 廣幸	162	
中条 孝則	160	
早川 幸弘	159	
櫻井 陽一	158	
小幡 文雄	158	
星野 裕昭	157	
越山 卓	156	
倉地 雅彦	156	
秋山 幸示	156	
塩沢 潤一	155	
中田 絢子	154	
丸山 六男	153	
神谷 幸克	152	
浜本 智	149	
浜田 真	148	

氏名	ポイント	表彰対象
三森 智之	148	
岩瀬 幹雄	147	
東江 真一	145	
杉山 昭	143	
小宮山 良典	143	
瀬戸 登	143	
荘所 義弘	143	
金井 康充	142	
北宮 健志	140	
渡部 義晴	139	
奥山 奥士	139	
豊田 美帆	139	
宇井 経雄	136	
竹保 義博	136	
鶴田 明三	136	
白勢 明三	135	
片岡 雅樹	134	
牧野 和昭	134	
五味 伸之	134	
花村 和男	133	
中野 恵司	132	
稲垣 雄史	131	
佐藤 和彦	130	
久納 和重	130	
三石 明生	130	
荒木 道郎	129	
曾我 光英	128	新貢献
渡辺 理恵	128	
石原 啓二	127	
田頭 康範	127	
白井 則歳	126	
本間 信一郎	126	
稲生 武	124	
田中 公明	124	
山本 昌吾	123	
西内 典明	123	
星加 錦三	122	
池嶋 昭一	121	
有浦 茂樹	121	
安藤 力	119	
絹村 章	119	
上杉 伸二	117	
阿部 誠	117	
星野 隆臣	117	
福島 祥夫	116	
林 好材	115	
柳本 嘉弘	115	
栗津 薫	114	
阿部 次男	114	
天谷 浩一	114	

氏名	ポイント	表彰対象
喜多 秀紀	113	
鈴木 勇	113	
留目 剛	113	
斎藤 之男	113	
小林 昭弘	113	新貢献
菊地 富男	112	新貢献
神生 直敏	112	新貢献
大村 欽也	112	新貢献
糸久 正人	112	新貢献
小倉 都宏	111	
坂上 征司	110	
橋本 千里	110	
内田 博志	110	
小宅 勝	110	新貢献
神谷 一徳	109	
池島 寛	108	
林 良宏	108	
楠本 剛史	108	
井上 清和	107	
徐 世中	106	
前田 敏男	106	新貢献
斎藤 誠	106	新貢献
飯野 由久	105	
木村 哲夫	105	新貢献
高田 賢治	104	新貢献
佐野 正行	104	
山口 新吾	103	新貢献
上原 一剛	103	新貢献
齊藤 衛	103	新貢献
今井 兼一郎	102	
安藤 隆造	102	新貢献
望月 茂利	101	
飯田 孝久	101	新貢献
橋本 晃	101	新貢献
檜原 弘之	101	新貢献
龍田 康登	101	新貢献
井上 克彦	100	新貢献
竹田 誠	100	新貢献
白木 信	100	新貢献